

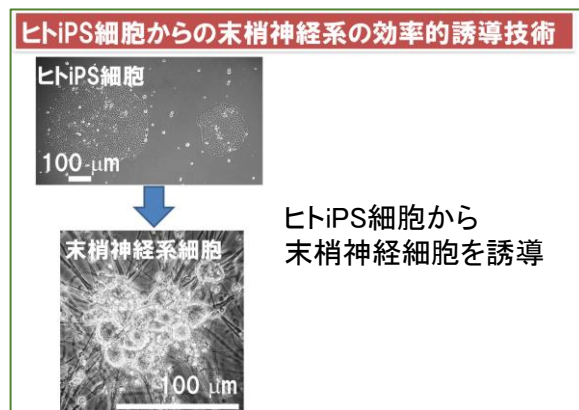
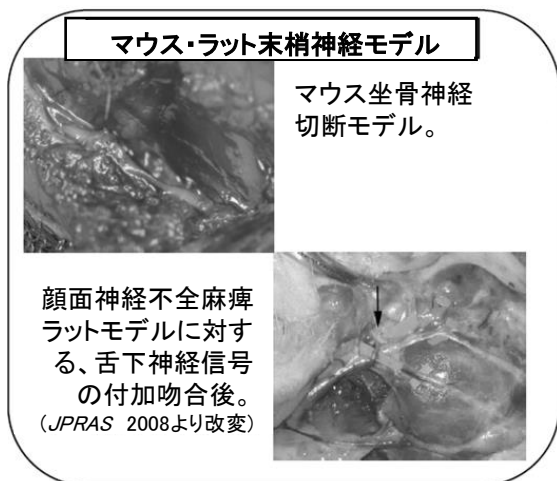
# ヒトiPS細胞由来末梢神経細胞の 形成外科領域への導入

## 背景

外傷・腫瘍摘出による末梢神経損傷・欠損や、顔面神経麻痺による特発性末梢神経麻痺などでは、機能上の大きな問題がある。これらに対して、自家知覚神経が採取され神経移植がしばしば行われているが、ドナーとなる部位の障害が避けられない。これに対して、人工神経が開発されているが、神経機能の回復が不十分な例が少なくない。元より、現在のところ最も治療効果が高いとされ大きな機能的犠牲を払って行われる自家神経移植においても、末梢神経機能の回復が不十分な例が少なくない。これらに対して、iPS細胞由来誘導末梢神経細胞を用いた新たな神経再建法の開発を目指す。



筑波大学  
University of Tsukuba



末梢神経の再生評価用モデル（筑波大）と、  
iPS細胞由来誘導末梢神経細胞作製技術(産総研)の融合



*In vivo* モデルで、誘導細胞移植による  
末梢神経再生効果を評価

筑波大学 医学医療系形成外科  
渋谷陽一郎

yoichiroshibuya@md.tsukuba.ac.jp



筑波大学  
University of Tsukuba

